



奨 励 賞

国営木曾三川公園カルチャービレッジ 大型遊具等の設計

設計部門



①「水の神」をモチーフにした竜の遊具②山並みを背景にそびえる竜の遊具③天空浮遊（ネットチューブ）④竜のカシラ（頭）⑤竜のドウ（胴）⑥竜のヒゲ（髭）

株式会社ブレック研究所 安河内泰男・松崎淳
中央コンサルタンツ株式会社 三浦利夫・浅野誠一

カルチャービレッジは、国営木曾三川公園「中央水郷地区」の1拠点で、昔から輪中として特有の生活・文化を形成してきた木曾川、長良川に挟まれた地域に位置し、その用地の一部は木曾川下流の右岸に隣接している。

豊かな濃尾平野を培ってきた木曾三川を「川の神の竜」とみなし、カルチャービレッジのシンボルとして竜の遊具を設置した。

この遊具は「水の神」の竜が、天空を舞う姿をあらわす。天空から下界を見渡すカシラ（頭）、左右に長く伸びたヒゲ（髭）、風にたなびく吹流しのようなドウ（胴）の3つの部位からなる。

竜の遊具の位置はカルチャービレッジの南側で広大で緩やかに隆起する芝生の丘の頂部としている。丘からは木曾三川沿いの輪中地域、濃尾平野、養老山地等を一望することができる。

作品概要

- 作品名—— 国営木曾三川公園カルチャービレッジ
大型遊具等の設計
- 所在地—— 三重県桑名市長島町西川地先
- 発注—— 国土交通省中部地方整備局木曾川下流河川事務所
- 設計—— 株式会社ブレック研究所（基本設計）
中央コンサルタンツ株式会社（実施設計）
- 施工—— 大島造園土木株式会社
（遊具関係：内田工業株式会社）
- 設計期間—— 平成16年11月～平成17年3月（基本設計）
平成19年2月～平成19年3月（実施設計）
- 施工期間—— 平成21年10月～平成22年3月（大型遊具等）
- 規模—— 約5ha（設計対象全体）
- 主要施設—— 竜の遊具、霧の輪中

作品評

この作品は、広大な芝生広場のシンボルとして、公園の立地特性である川や水の神である「龍」をモチーフとした大型遊具を整備したものである。公共工事における経費縮減が声高に謳われて久しい中で、こうした施設に出会うことは新鮮な気持ちを蘇らせるという意見があった。

設計コンセプトからデザインへの展開は単純明快で解りやすく、ストレートに形へとつながっている。また、シンプルなデザインの中に、遊びへのチャレンジや安全性への配慮、経費縮減などの工夫が詰まっているといえる。

ただし、基本計画から基本設計、実施設計という流れの中で、特に今回の場合はそれぞれの担当者が違うため、どのような検討の変遷があったのかなどの説明をもっと充実させて欲しかった。また、あまりにも単純化・象徴化された形態から、「龍」のイメージに結び付きにくいと意見もあり、奨励賞となった。